

共に生きる

東日本大震災現地支援ニュース No23

2014年4月30日 大会執事活動委員会

のぞみセンター活動報告

2014年4月

のぞみセンタースタッフ 浜田 唯

桜が舞う空の下、一学年「オトナ」になった子どもたちが元気な笑顔を見せてくれている。新町長選をイースターの日に控え、声を張り上げ通っていく選挙カーから流れるプロパガンダに、山元町の将来を案ずる住民の期待も高まる。津波で先立たれたご家族を想い涙される方々と共に泣き、「新しい日常」を歩まれている方々と共に祝い喜んだ3月。日本全国から支援活動を継続しておられるアーティストや伝統芸能の巨匠たちが集まり、復興地を大いに励ましてくれた。春休みには、どの年代層でも参加できるボウリング大会+温泉を企画した。感謝なことに三郷教会や東京教会の方々のご奉仕によりスタッフも含め約75名で楽しいひとときを過ごすことができ、子どもたちから「また行きたーい！楽しかった!!」という嬉しい感想を頂いた。子どもが元気になると、そのご家族や親戚、そして後には必ずコミュニティー全体が元気になる！そのことを4月頭に行われた東仙台教会ボランティアセンターと合同で行った春キャンプでも確信させられた。今回初めて山元町からも大型バスに約40名の子どもたち、保護者、スタッフが乗り込み、ワイワイがやがや参加した。中には生まれて初めて讃美を歌い聖書の御ことばに触れた子もいたが、帰る頃には暗記した讃美を全員が熱唱し(バスの運転手さんもビックリ?笑)「夏の



キャンプも絶対え行くからー!」「早く場所と日にち教えてねー!」と大盛り上がりだった。親御さんからも「今まで辛いこともあったけど、震災で失ったものばかりではありませんでした。本当にありがとう」という感謝のメールや電話を頂き涙の祈りで主を誉め讃えた。東仙台教会のスタッフが築き上げて来て下さった尊い礎を心から感謝し、主がこのタイミングで与えられた東松島、仙台の子たちと山元町の子たちとの出会いがこれからどのように展開されていくのか期待して見守りたい。こういった大人数のイベントもさることながら、毎週継続されている地道な働きも祝福を受けている。県内外から届く焼き菓子とコーヒーや紅茶で「おもてなし傾聴」を行っている毎週(金)の「のぞみカフェ」は今月から月に一度仮設住宅からの送迎を出すことにし、地元のラジオ番組でも紹介された。その他の働きも溢れんばかりの恵みを受けているが、全部書くとページが足りなーい!!ので、再来月の報告に乞うご期待!続きまして大野スタッフからの福島での活動報告です。最後にはなりましたが、1年半のぞみセンターで毎週ご奉仕下さったトンプソンご夫妻に、そして皆さまからの日頃のご支援に両手いっぱいの感謝をこめて…♡



以前より相馬市、南相馬市の被災地支援の協力関係にあります同盟相馬教会の後藤先生と4月11日午後より福島県相馬郡新地町にあります「雁小屋仮設」の集会所をお借りして、石鹸デコパージュのイベントを開催しました。新地町は宮城県山元町の隣町で、のぞみセンターからは車で30分の距離にあります。この仮設には約100世帯の方々が生かされていて、地元新地町の方を始めとして南相馬市、二葉町、小高、

原ノ町出身の方が生活をされています。ですから、津波に被災された方、原発事故に被災された方等出身地、被災原因も違う方々が集まって仮設住宅で生活されています。このイベントには、後藤先生とのぞみセンターからは、東京からのボランティア2名（東京恩寵教会：鬼澤姉、国立聖書教会：明峰姉の応援を得て）と、センターから大野夫婦2名の4名が訪問しました。自治会長の森 和哉さんは40歳代の現役世代の男性で、森さんのお話によれば、この仮設には幼児から小学生まで60名の子供が居られ、比較的若い世代の家族が生活をされているとの事でした。イベントには7名の方が参加され、その内3名が男性でした。その中で、60歳代の方で、南相馬市で漁師をされていた方は、2隻あった船が津波で1隻だけ残ったそうです。昨年2度だけ試験操業をされたそうですが、毎日汚染水を海に流しているのを見せられれば、誰だって魚を買う気にはならない、と無念そうに言われました。跡継ぎの息子さんは石巻の漁港で働いていると、寂しそうに話される姿を見て言葉が出ませんでした。自治会長の森さんからは、子供達の為のイベントを考えて頂けると有り難い、とのご要望がありました。今後実現に向けて祈っていきたいと思います。

(のぞみセンタースタッフ 大野 雅良)

*名古屋岩の上教会ディアコニア報告

名古屋岩の上教会 杉山敏

3月21日から23日（第12回）にかけて、福島県相馬市・南相馬市、宮城県の山元町にて支援活動を行いました。今回は初めて、仮設住宅の集会場で名古屋岩の上教会員の医師の奉仕で健康相談コーナーを設けました。下記、奉仕者によるレポートです。

一昨年5月、のぞみセンターの開所式以来、2度目の東北ディアコニア、今回は直子姉妹の提案で健康相談の奉仕を行った。震災から3年、医療施設の復興も進んでおり、相談にいらっしゃる方がいるのかなど（不信仰にも）思いつつ、相馬市の仮設住宅の集会室の一室に机と椅子、血圧計を準備し、白衣を着て待ちました。直人兄弟や山田兄弟の声掛け（みぞれ混じりの雨と強い風の中、合羽を着てもずぶ濡れになりながら、お二人で軒ずつミネラルウォーターを配りながら）、これまでのディアコニアでの信頼、後藤一子牧師の少し強引な(?)誘いもあり、直ぐに相談の方が来られた。

最初の方は、受診した病院で、来週に予定された検査があり、癌が見つかるのではないかと心配ですとのこと。症状を聞くと、癌の可能性はあまり高くなさそう。しかし、誰も一度心配するとなかなかその不安から逃れられない。そう言う私も、数年前、物が呑み込みにくくなり、これは間違いなく食道癌と思ったことがある。そう思うとますます、胸に違和感が強くなり、強く確信するようになった。だが、カメラで覗くと何もない。検査が終わるとそれまであった胸のつかえが全くなってしまった。病気は気からである。このご婦人には、症状から癌を強く疑うほどではないこととお話した。最近、目が見にくいとのことで相談に来られた方がいたが、白内障が原因であり、手術が必要なことはご自分で分かっておられた。しかし、眼科はどこもいっぱい、いつも待っている途中で帰ってしまうとのこと。東北の被災地、病院の医師数は震災前に戻ったとの新聞記事を読んだことがあるが、体調の悪い方が多いためか、病院は混み合い、一人一人にゆっくりお話しする時間が取れない様である。

2か所目は南相馬市の仮設。自宅が原発事故の避難地区に指定され、移り住んでいる方が多い。その仮設の1/3ほどが一区画となつて、ペットの飼育が許可されている。ワンちゃん、猫ちゃんと一緒に避難生活ができる。この仮設での健康相談から強制的な避難と身体の不調との関連がうかがわれた。相談に来られた方に、いつから症状があるのか聞くと、仮設に移ってからとのこと。自宅があるのにそこに住めないことがストレスになり、症状がでていたようであった。身体のあちこちにいろんな症状のあるご婦人。手足の痛み、首の痛み、胸の痛み、お腹の痛み、全て左側だけ。医学的にそれらの症状を一元的に説明できる病気が思い当たらない。ただ、お話を聞くだけであった。痛みがどの程度続くのかと聞くと四六時中痛むと言う。しかし、避難区域にある自宅へ帰宅の許される数時間だけは痛みが消えてしまうとのことであった。

数キロの所に自宅がありながらそこに帰れない。そのことが原因のようである。この仮設は190世帯。原発事故で避難している方は14万人と言う。どれほど多くの方が同じような悩みを抱えていることか。

3日目の朝、以前からディアコニアで教会から何度も訪問している山元町での健康相談。教会員が文通している方々が直子姉妹の勧めで来られた。A姉妹の文通相手の方は、昨年、腎臓を1個取る手術を受けたとのこと。この先、残った腎臓も悪くなってしまうのではないかと大変心配していた。私の専門の腎臓の領域のこと。丁寧に話しかけることができ、安心された様子。B姉妹の文通相手の方もご夫妻で来られた。ご主人は、津波の後、まる1日、冷たい海で身体半分が水につかり、最初は奥さんと声を掛け合っていたが、そのうち、意識がなくなり、意識不明で救出された。冷たさのため下半身の神経がマヒし、最初は動かすこともできない状態であったが、徐々に動きは回復したとのこと。しかし、今は神経痛がひどく、両足の外側に痛みが走る。神経そのものが長時間の冷却という傷を受けたために起こる神経痛で、激しい痛みをきたすことがあり、受傷後、数年、続くこともまれではない。徐々にではあるが回復するので希望を持つようにお話した。

各仮設で5人ずつ、15人とお話しすることができた。施設面での医療環境は復興しているが、時間をかけてゆっくりお話を聞いてあげることが必要な方が少なからずいることが分かった。機会をみて再度、訪問したい。

*陸前高田活動報告

チーム陸前高田代表 李根培宣教師

一泊二日仙台観光と新垣コンサートの御招待

3月7日—8日まで、陸前高田の仮設住宅の皆さんを仙台にご招待しました。当日、大型バスを借り切り、仙台市西部に位置する錦が丘アウトレットに到着しました。仙台の味牛タンを食べ、ショッピングをし、天文台の訪問を終えて、秋保温泉ホテル佐勘に到着しました。共に夕食をする前に、私は皆さんに挨拶の言葉を述べました。

「・・・私はどうしても皆さんに伝えたいことがあります。それは、神様の愛についてです。このような温泉ツアーなどを準備するお金は、世界の教会からの献金によって支えられています。アメリカの教会が、オランダの教会が、南アフリカの教会が、韓国の教会が、会ったことのない人々が、愛をもって、支援金を送ってくださっているわけです。そして、私たちも愛をもって、陸前高田を訪問してイベントをやっております。世界の教会の人々が神様の愛をもって、献金を送ってくださったことを覚えていただきたいのです。・・・」

翌日、昼食を食べて、新垣勉さんの希望のことばコンサートに参加しました。ウルスラ学院の合唱部の歌声と、新垣さんの歌とトークをタップリと聞いて、コンサート鑑賞を終えました。帰りのバスの中で、34名のお客様方に自己紹介と共に、今回の感想と私たちチームに対する要望などを伺いました。

「〇〇仮設の〇〇です。昨日と今日はたっぷりと楽しい時を過ごさせていただきました。何も言う事なしです、ありがとうございました。」多くの方はこの様なお話しでした。中には、「又宜しく願います」という方も居られました。又ある男性は「震災後毎食、食事作りの生活



でした。昨日、今日と二日にわたり食事作りの無い生活をさせていただきました。私にとりまして、最高の二日間でした。今晚の夕食は戴いた秋保のおはぎとします。」と。しばしの休憩の後、歌の時間となりました。ある仮設の男性は故郷の歌のメドレーを歌い出しました。やっとな別の男性にマイクが移りました。89歳の男性です。「中国語の北国の春」を歌い出しました。大きな拍手です。車中全員で日本語版「北国の春」を、仮設の女性のご指導で歌いました。



4月1日から3日まで、2泊3日の春キャンプを行いました。行き先は秋保温泉です。子どもたちが85名、大人も合わせて総勢111名の参加となりました。今回はのぞみセンターからも子どもたちが参加してくれたことがとても嬉しいことでした。初めは慣れない顔ぶれに戸惑っているようでしたが、3日目にはすっかり打ち解け、楽しいキャンプとなりました。自分たちの町以外にも自分たちと同じような境遇の

子どもたちがいるということを知ることは、とても意義深いことであったと思います。この出会いが今後のキャンプなどを通してさらに深まって、彼らが共に成長して行ってほしいと願っています。

4月22日から23日にかけて、ひびき工業団地仮設住宅の方々と白石の鎌先温泉に「一泊お花見温泉ツアー」に行ってきました。「きちんと参加費をとって参加してもらうことも大切だ」という助言もあり、今回は参加費を1万円に設定して企画しましたが、それでも23名の方が参加してくれました。共に温泉で体と心を温め、美しい桜を鑑賞しました。鎌先の桜はちょうど満開でした！

(祈祷課題)



- ・6月から山中雄一郎先生が東仙台教会の協力牧師として着任してくださいませ！山中先生と奥様のこれからの働きと新しい生活が祝福されるようにお祈りください。
- ・6月からサクラハウスのリフォームが始まります。今後は「自給自足」で活動を継続していく必要があり、11月からスタッフの熊田真介兄がサクラハウスでラーメン屋を開店する予定です。仮設住宅を出て野蒜・新東名の町に移転する人は増えていますが、町には飲食店が一つもなく、住民の方々もお店が出来ることを切望してくれています。この計画が祝福されて、これまでに親しくなってきた方々との関係を継続していくことができるようにお祈りください。

<今月の御言葉> 「一筋の光」

冬の厳しい厳しい寒さを耐えてきました。冬の厳しさが、来る日も来る日もありました。ところが、ある日、寒さが和らいでいることに気が付きます。ご近所さんと、こう声を掛け合える季節になりました。「暖かくなりましたねえ。」あれだけの寒さに悩まされていたのに、時が満ちると春がきて桜の花が咲き、暖かなそよ風を感じます。心もホッとします。

逆境の中で追い込まれ、心の中が厳しい冬にある方がおられるかもしれません。また、ある方は八方ふさがりの中で焦りの苦しみにおられるかもしれません。そのような中で、主イエス・キリストはこう言われます。「あなたは、わたしに従いなさい。」(ヨハネ福音書 21:22)

かつて、主イエスについていった弟子たちは、様々な不安の中で、主イエスの言葉に少しづつ従ってみて、その言葉が現実の中で力をもっていることを教えられて、やがて自分の命を救う力を持っていることを知りました。八方ふさがりの中で、「わたしに従いなさい」という言葉は、一筋の光のような希望に見えてくるのではないのでしょうか。神の祝福へ向かって、一步一步進んで行くのです。行く先がわからず、あてがなく生きるものではありません。ある人はこう思うかもしれません。「主イエスの言うとおりにしてみたらどうなるだろう・・・」

今、心が凍り付くような苦しみの中でも、主イエスの道を共に歩むなら、厳しい寒さのような罪に閉じ込められることは決してありません。寒さから解き放たれ、暖かい春のような、神の平和と愛が必ず与えられます。その時がいつなのか、私たちに知らされていなくても、主イエスに従っていくなら、必ずその時は来ます。神はあなたに今日、語りかけておられます。「あなたは、わたしに従いなさい。」

宿毛伝道所 酒井啓介